

佐野短期大学シラバス2014

科目名 Course Name	開講年次	開講学期	曜日・時限
認知症の理解 Understanding Dementia	1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格	履修上の制限
2単位	講義	選択	介護福祉士養成課程以外の学生と 社会人対象
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目			
特になし			
同時に履修しておくことが望まれる科目			
特になし			
担当者に関する情報			
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス
和田 晴美	福祉棟 2 F	月・火・水・木の9時から16時（授業 時間を除く）	授業中に指示します
授業の概要			
現在日本で認知症のある患者数は、400万人を超えているといわれている。今後もさらに増加することが予測されており、認知症への対応は緊急の課題である。本講義では、認知症に関する医学的知識や、認知症に伴うこころとからだの変化が及ぼす影響について学び、認知症に対する基礎的知識を習得する。さらに、認知症のある方に接するときの留意点や家族のストレスとその支援について学習することで、認知症がある人とその家族への支援に対する理解を深める。			
授業の目標			
①認知症ケアの歴史の概要を説明できるようにする。 ②脳の解剖・生理と老化のしくみについて説明できるようにする。 ③認知症を引き起こす疾患を列挙できるようにする。 ④認知症がある人の中核症状と、行動・精神症状を説明できるようにする。 ⑤認知症がある人を介護する家族のストレスの原因や対処方法について説明できるようにする。			
授業の方法			
講義中心ではあるが、グループでの学習などを通して、認知症を理解する。また、認知症に関連するトピックスを新聞や雑誌などから選び、その記事の概要と感想を発表することを課題とし、発表の機会をもうける。認知症に対する関心を持っていることが必要である。			
学習の成果（学習成果）			
①認知症ケアの歴史と認知症を取り巻く現状を述べることができる。 ②認知症の原因となる代表的な疾患や特徴的な症状を列挙し、説明することができる。 ③認知症がある人と家族に対して、共感的に接することができる。 ④認知症がある人の尊厳を支える個人や地域のサポート体制について、自分自身の意見を述べるすることができる。			
授業のスケジュールと内容			
第1回目	授業ガイダンス（授業の進め方・評価方法など） 認知症とは		
第2回目	認知症ケアの歴史と認知症を取り巻く現状		
第3回目	医学的側面から見た認知症の基礎知識① 脳の解剖生理 老化のしくみ 記憶のしくみ		
第4回目	医学的側面から見た認知症の基礎知識② 認知症を引き起こす疾患		
第5回目	医学的側面から見た認知症の基礎知識③ 認知症を引き起こす疾患		
第6回目	認知症の症状① 中核症状と対応		

第7回目	認知症の症状② 利用者から考える行動・精神症状（BPSD）		
第8回目	認知症の症状③ 利用者から考える行動・精神症状（BPSD） DVD「毎日がアルツハイマー」視聴【レポート課題】		
第9回目	認知症の診断と治療 アセスメントスケール【演習】		
第10回目	認知症の非薬物療法①		
第11回目	認知症の非薬物療法② 認知症ケアの原則		
第12回目	認知症の人と家族への支援 家族のストレス、家族へのレスパイトケア DVD「ハルさんの物語」視聴【グループワーク】		
第13回目	認知症の人と家族への支援 認知症をよく理解するための「九大法則と一原則」		
第14回目	認知症がある人に対する人権侵害の問題と対応（試験）		
第15回目	認知症の予防 認知症予防のメカニズム 地域型認知症予防プログラム		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%		以下の視点で評価する。授業の準備が整い、講義は集中して必要なことをノートに取り、疑問点は質問して解決できること。ディスカッションでは他者の意見を傾聴し、自ら積極的に発言して学びを深められること。
レポート	15%		「毎日がアルツハイマー」の視聴による感想文で評価する。評価基準Sは、認知症がある人と家族を共感的に捉え、自身の介護に振り替えて考察すること。期限厳守して提出すること。
調査報告書			
小テスト			
試験	50%		穴埋め問題（語彙群あり）、文章を読み正誤を問う問題等で知識の確認をする。
発表内容（態度含む）	15%		「認知症に関するトピックス」の発表で評価をする。評価基準Sは、課題を十分に理解したうえで、分かりやすく工夫した発表であり、他者を惹きつけるようなものであること。
その他			
教科書と参考図書			
新・介護福祉士養成講座 第12巻 認知症の理解 中央法規出版			
履修上の留意点・ルール			
講義・グループ学習とも積極的に参加すること。教室での飲食、机上への飲み物の放置も禁ずる。やむを得ず欠席した場合は、必ずその部分の学習を補い、届出等は速やかに提出すること。			